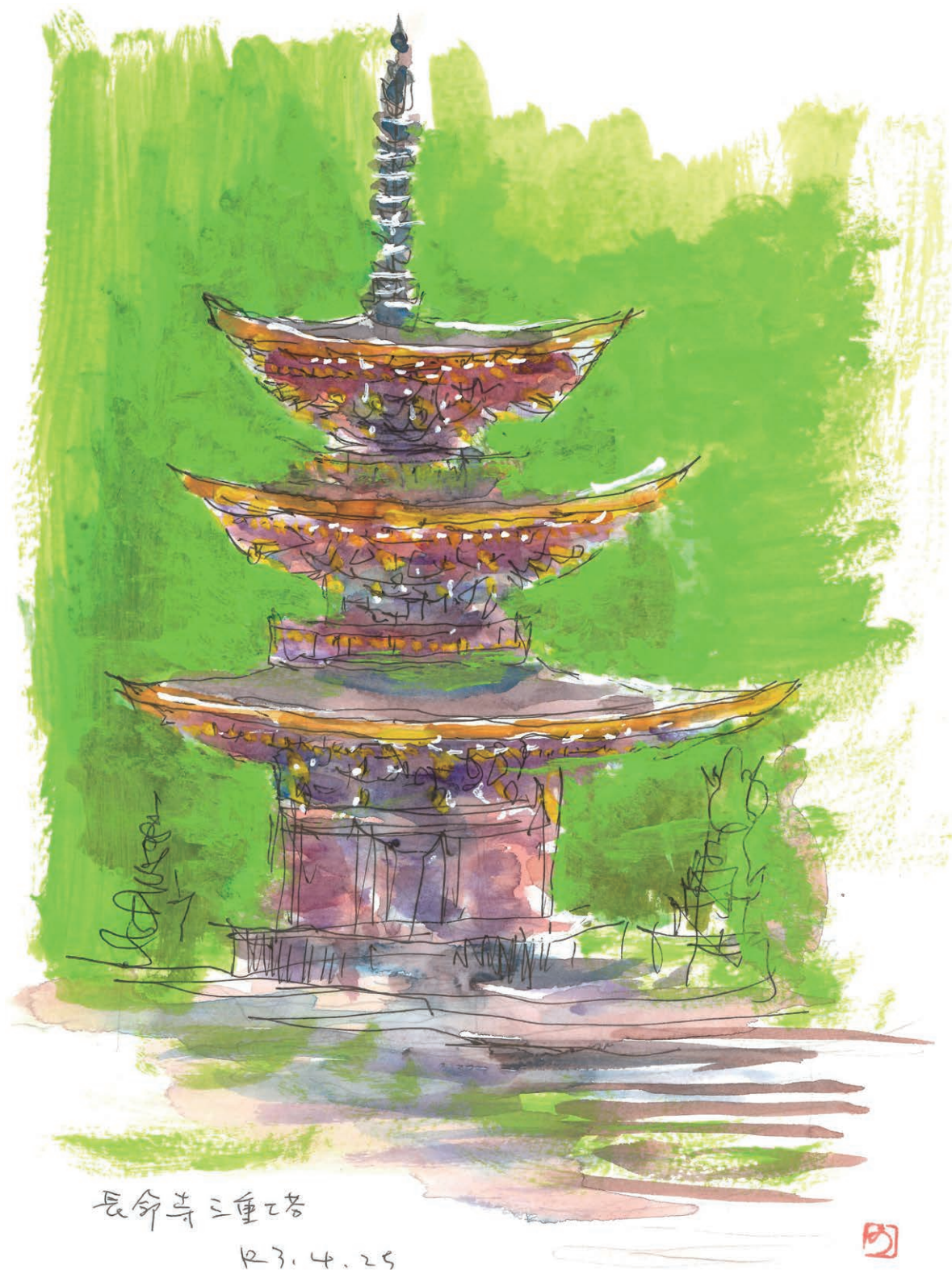


京都だより

Kyoto Dayori



長命寺三重塔

12.3.4.25



●けんちくつれ草 第197回
エレベーター・半導体部品
の納入遅れと
グローバル化の危機

●事業案内

建築家セミナー2023 末光弘和/SUEP

令和5年度 監理技術者講習

令和5年度 青年部会通常総会

●お知らせ

会報誌「京都だより」の

2か月に1回に発行変更のお知らせ

令和5年 建築士試験案内

「免状型」一級建築士登録証明書の発行

一級／二級／木造建築士 定期講習

●報告

京北WSP(ワークショップ・プロジェクト)について

令和4年度 山田家活用フォーラムの活動報告

●京都を彩る建物や庭園 第12回

歴史的建造物の公開に触れる(一)

京都市文化財マネージャーの視点

●作品紹介 深草の京町家

●支部だより 竹野神社

●うちの本棚・今月の一冊

『中心のある家 建築家・阿部勤自邸の50年』

●表紙のことは 『長命寺 三重塔』

●募集 「京都だより」作品紹介ギャラリー

April
2023
No.561

4

一般社団法人 京都府建築士会

つれづれ草

昨年、京都市内の産婦人科病院の設計監理業務の機会にめぐまれました。

コロナ禍での設計監理業務でしたが、監理段階でエレベーター納入に支障が生じました。ただでさえ、半導体関連の部品や製品の納入が課題でしたが、これには世界の安全保障問題が絡んでいたようです。

6階建ての本計画で、2か所にエレベーター設置が計画されていましたが、この部品が中国に留め置かれ現場に納入されない事態でした。当該工事が遅れるだけでなく、敷地に余裕のない建築工事で、設置後は建築材料や人員の運搬に使えず、工期遅延が懸念されました。工事担当者の頑張りでなんとか乗り切れましたが、最近になり遅延にまつわる世界経済状況が見えてきたのです。

「グローバル化の危機」

NHKのクローズアップ現代でご覧になった方も多いと思いますが、格差拡大や産業の空洞化を助長すると懸念されていたグローバル化が危機に瀕しているというのです。その是非を議論したこともあり、興味を持って何度か見直し、自分なりに考えてみました。

本番組では、アメリカの安全保障問題から始められました。今までグローバル化の旗手であったアメリカが異例の政策を去年10月から始めたのです。中国を国際秩序を変える国として、対中戦略に加え保護主義的な国家安全保障戦略の色彩を強めたのです。これは、中国を意思と能力を兼ね備えた唯一の自国の競合国として、軍事だけでなく経済科学技術など総合的な対立国としての扱いを始めているのです。

このような姿勢は、経済の分野では、半導体・蓄電池・重要鉱物・医薬品の4分野に焦点をあて、特定の中国企業を指定しそれらの企業との取引を行う国に対し、制裁を検討するというものです。政策は結構厳しく、指定された企業が直接の取引先でなくとも取引先がサプライチェーンとして、7次くらいまでの取引先である場合も同様の処置とするものです。すなわち、世界を股に掛け、ローコストの取引先を探し出し独自のサプライチェーンを形成してきた日本を始めとする西側諸国の企業は、価値観の全面的な再構築を迫られることになったのです。

「経済の観点だけでは不十分」

番組では、AIを活用して企業の部品や製品のサプライチェーンの状況を可視化するベンチャー企業の働きが紹介されていました。これらにより、アメリカの要求に応えようとしているのです。

ここで、問題にされている企業は中国とロシアとなりますが、直接ではなくても何等かの形でこれらの国と貿易を行う西側の国は取引の再検証とその対応を変更する必要が生じているのです。

私自身は、資本主義、民主主義の日本は本来、一党独裁の共産主義の専制国家とは注意深く付き合う必要があると思っています。しかし、番組では日本はその代表国の一つでもある中国企業との取引がかなり多いことを報じています。国家の安全保障にかかわる分野で重要な鉱物であるレアアースを日本は、そのすべてを輸入に頼っていますが、6割近くを中国から輸入し、この調達先を変えることは簡単ではないので

す。言うまでもなく野菜など食分野では中国生産品がなければ成り立たない状況です。一時、食物自給率が寂しい限りの日本について、有名経済評論家が、そんなものは他国から買えばよいと語っていましたが、如何でしょうか。お花畑的な議論としては、だから東も西も他国とは仲良くすべきなのだとの意見も聞こえてきますが、私は安全保障意識が、自立した国としては必要だと思うので気が気ではありません。

以前は政治と経済は別物として政経分離が我々にとつての望ましい姿としてされてきました。ここに安全保障の必要性が入り、生じて来たグローバル化の危機は、要である経済、即ち国防の危機であると思います。番組では、経済と安全保障が一体となった時代の日本の豊かさを考えることが求められていると纏められていますが、真剣に再考すべきと思います。

エレベーター・半導体部品の納入遅れとグローバル化の危機

経済と安全保障が一体となった時代

えとう・てるお

1950年生まれ 一級建築士

京都大学工学部建築学科卒業

(一社)京都府建築士会顧問

(株)ひと・まち・建築設計代表取締役

2023 Event Calendar

5 ← 4

 Exhibition
Seminar
Symposium
Event

建築家セミナー2023 末光弘和/SUEP.

 ～Harvest in Architecture
自然を受け入れるかたち～

青年部会 研修・セミナー担当会

- C P D 2単位(予定)
- 日 時 4月22日(土) 午後2時～4時
- 会 場 ウィングス京都
2階イベントホール
- 参加費 無料
- 定 員 240名
- 申込締切 4月17日(月)
- 内 容
毎年建築家をお招きし開催している本
事業で、本年は自然と建築が共生する
新しい有機的建築のデザインを手掛け
ているSUEP.主宰の末光弘和氏にご登
壇いただき講演会を開催いたします。

令和5年度 監理技術者講習

事業委員会

- C P D 6単位
- 日 時
第1回 4月25日(火)
受付開始／午前9時
運営説明／午前9時20分～9時30分
講 習／午前9時30分～午後5時10分
- 会 場 京都建設会館別館 会議室
- 定 員 20名(定員になり次第締切)
- 申 込 (公社)日本建築士会連合会
HPよりお申し込みください。
- 内 容
建築士会が行う『監理技術者講習』の
大きな特徴は、『建築に特化した講習
内容』であり、特にテキストは分かり
やすく、建築施工実務に役立つだけ
でなく建築工事全体について学習でき
る充実した内容となっています。また、
法定講習であると同時に建築士会CPD
認定研修でもあります。
設計業務にのみ従事されている方も建
築施工の知識を得るために、この機会
にぜひ積極的にご受講ください。

お知らせ

「京都だより」特集まとめ

 (一社)京都府建築士会のホームページで、
「京都だより」の特集をまとめたPDFをご覧
いただけます。

令和5年度 青年部会通常総会

青年部会

- 日 時 5月19日(金)
午後6時～7時30分 総会
午後7時30分～9時 懇親会
参加費／6,000円
※会場の都合もあり、総会へのみの参加
であっても参加費は必要となります。
※5月12日以降のキャンセルについて
は後日請求いたします。
- 会 場 がんこ二条苑
- 申込締切 4月14日(金)
- 総会次第

1. 開会	1. 部長挨拶
1. 会長挨拶	1. 議事
1. 閉会	
- 議事内容

1 令和4年度事業報告承認の件
2 令和4年度収支決算報告承認の件
3 令和5年度役員(案)承認の件
4 令和5年度事業計画(案)承認の件
5 令和5年度予算(案)承認の件

4

April

- Mon **3** 常任理事会
一級・二級・木造建築士試験申込受付
(インターネットによる受付のみ)
(4/3～4/17)
- Sat **15** 岐阜をめぐる
(令和4年度国内研修旅行 4/15～4/16)
- Tue **18** 七彩の会
- Sat **22** 建築家セミナー 2023
末光弘和/SUEP.
～Harvest in Architecture
自然を受け入れるかたち～
- Tue **25** 監理技術者講習

5

May

- Mon **8** 常任理事会
- Tue **16** 七彩の会
- Fri **19** 青年部会総会・懇親会
- Mon **22** 支部長会議・理事会
- Sun **28** 女性部会全員会議・見学会

 ※注意：京都建設会館の駐車場は
利用できません

参加申込

 電話・FAX、またはホームページから
お申し込みください。事業内容の詳細
は、ホームページをご確認ください。

 (一社)京都府建築士会事務局
TEL075-211-2857 FAX075-255-6077
https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp
E-mail:contact@kyoto-kenchikushikai.jp

 <事業に参加される方へ>
新型コロナウイルス予防のために

- ・感染拡大の状況により事業を中止または内容を変更することがあります。
- ・参加される際は必ずマスクを着用してください。
(熱中症などの対策が必要な場合を除きます。)
- ・37.5℃以上の発熱や咳、くしゃみ等の症状のある方は参加できません。
- ・事業実施中は係員の指示に従い、手指の消毒や手洗い、対人距離の確保(推奨2m、最小1m)など、基本的な感染対策にご協力ください。
- ・係員の指示に従わない場合は、参加をお断りする場合があります。
- ・感染拡大防止のため、連絡先の登録や接触確認アプリのインストールにご協力をお願いします。

会報誌「京都だより」の2か月に1回に発行変更のおしらせ

一般社団法人 京都府建築士会 会長

山領 正

新型コロナウイルスの取扱いが、2類から5類へ5月8日に移行が決まったものの、今一つすっきりしない中ではございます。春陽麗和の季節、(一社)京都府建築士会会員の皆様におかれましては益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

平素は、毎月発行の「京都だより」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。本日はその「京都だより」につきまして2か月に1回に発行変更のお願いです。

京都府建築士会の「会報」としましての発行の歴史は、
・1952(昭和27)年5月20日
4頁で始まり、その時の会員数は218名で、初代広報編集委員長は山内省二氏、委員を含めて5名体制で年3回の季刊誌として発行。

・1957(昭和32)年6月号
会員数301名時には発行5周年記念誌84頁を発行。

・1958(昭和33)年11月
会員数449名時に、当時の森田慶一会長の要望にて、翌1959(昭和34)年に月報第1号を発行。

・1964(昭和39)年5月
近畿全体での「ひろば」発行に伴い京都府建築士会単会の会報誌は中止。

・1975(昭和50)年
会員数2027名時に「京都の建築士」として再度発行開始。

・1998(平成10)年6月
会員数2455名時に現在の「きょうとだより(ひらがな)」として名称変更。

・2006(平成18)年6月
会員数2033名時に「京都だより」(きょうとを漢字)に変更し現在に至っております。

2023(令和5)年1月現在の会員数は1235名。1997(平成9)年

2534名のピーク時の半分以下となっており、少子化に加えまして会員の高齢化、一昨年から続いておりますコロナ禍にて、会員数の減少に伴う減収、担当委員会の人材不足、そして印刷費用等の外注費用の高騰が続いており、いろいろな会員増強対策や収益事業の取り組みなどの財政、運営の改革に関して検討し実行してまいりましたが、さらなる財政改革が必要な事態となっております。

弊会といたしまして、会員皆様への情報発信の場、情報収集の場でございます「京都だより」の発行を継続していく上で、新たな体制を考えざるを得ません。

紙媒体をやめて、ホームページ上のみの公開や、情報メールに添付に変更するなど、検討を重ねましたが、現在の会員

皆様への情報発信といたしまして毎月届きます、連合会からの「建築士」やイベントカレンダーに関しまして、紙媒体での購読を継続していただいております会員様も多く、急激なIT化にしましてはまだ厳しいこともございます。

そこで、「京都だより」に関しまして、奇数月の「7月、9月、11月、1月、3月、5月」年6回の隔月の発行とし、「建築士、イベントカレンダー」に関しましては毎月の送付とさせて頂くことと致しました。

歴史ある、「京都だより」を隔月発行に変更することはとても心苦しいかぎりではございますが、なにとぞ、会員皆様のご理解を賜りたく存じます。

最後になりますが、(一社)京都府建築士会会員の皆様の末永いご繁栄と一層のご躍進をお祈り申し上げます。

お知らせ

「免状型」 一級建築士登録証明書 (事務所等掲示用)の 発行について

この証明書は偽造防止等の対策を講じたもので、建築士事務所に掲示するものとして相応しい建築士登録証明書となっております。

ご希望の際は、下記をご確認のうえお手続きください。

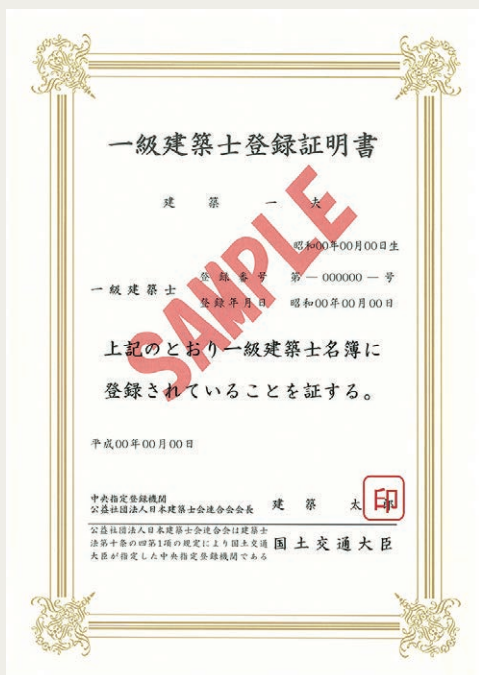
●必要書類

- (1) 証明願(和文)
- (2) 一級建築士免許証(免許証明書)の写し
- (3) 本人確認ができる公的な身分証明書(写し)
- (4) 郵送申込：
発行手数料1,780 円に、
返信用レターパック代520円を加算した
2,300円分の定額小為替を同封して下さい。

●申請先：〒108-0014

東京都港区芝5-26-20 建築会館5F
(公社)日本建築士会連合会 登録部

※郵送期間を含め約1週間かかりますので余裕をもってご依頼ください。



お知らせ

令和5年 建築士試験案内

一級・二級・木造建築士試験

※受験申込は原則として「インターネットによる受付」のみとなりました。

なお、インターネットによる受験申込が行えない正当な理由がある場合（身体に障がいがありインターネットの利用が困難である等）には、別途受付方法をご案内いたしますので受付期間に間に合うよう、公益財団法人建築技術教育普及センター本部までお問合せください。

インターネットによる受験申込の受付

●期 間：4月 3日(月)午前10時～
4月17日(月)午後 4時

試験日

一級：学科試験／ 7月23日(日)
製図試験／ 10月 8日(日)

二級：学科試験／ 7月 2日(日)
製図試験／ 9月10日(日)

木造：学科試験／ 7月23日(日)
製図試験／ 10月 8日(日)

※詳細は、建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。

<https://www.jaeic.or.jp/>



京北WSP(ワークショップ・プロジェクト)について

京北WSPの発足は、2020(令和2)年に私の友人から京北地区で茅葺き古民家の改修の依頼を受けたことに遡ります。改修方法を検討する中で、現況の茅葺き屋根の葺替えを行なうかを検討していました。

京都には重要伝統的建造物群保存地区の美山以外にも茅葺き屋根を持つ古民家が残存しています。京北には2007(平成19)年に38軒あったそうですが、これらの維持管理するのに相当苦勞されており、近年半減してしまいました。(また、すでに茅葺き屋根の上に銅板葺きに変更された建物が408棟もあります。)

同時期に他の古民家の茅葺き屋根の改修

も行なっていたので、茅葺き古民家の改修費用がかなりの額になる事は承知していました。半減することも願います。

そうした中、茅葺き屋根の古民家の持ち主達が、毎年定期的に茅刈りを行ない、その茅を残して葺き替え時に使う活動をされている事を知りました。昔は、地域に「結(ゆい)」のような相互扶助の組織(形)があり、近隣集落をあげて屋根の葺替えを茅葺き職人と共に行っていましたが、地域に住む人達も少なくなっていると「結」のような相互扶助での葺き替えは行われなくなりました。茅の葺替えは高額であり、20、30年に一度葺き替える必要があります。こ

うしたことから、昨今では金属板葺きの屋根に変えられる事も多く、空家になり解体される建物も増えてきています。解体されると(同じ建物が建つわけでもなく)地域の風景が変わって、建物を建てるのを生業とするものとしては、これらの美しい風景を残したいと思い、(ただ放っておくことができず)何かそこでできる事が無いかと考えていました。

私が主催する京の山杣人工房『木のこゝろ風』は、京北地区で植林を毎年(14年間)おこなってきたいて、その中で京北をベースに活動する景井先生(立命館大学 産業社会学部教授)と出会いました。過疎化に向かう中間山村地区(京北地区)の事を話し合う中で、茅刈りから葺き替え、そして茅葺き古民家の保存活用、その後地域活性化ができないかと拡大展開していき、同年10月にはそれらの一連の活動を行うため、京北WSPを創設するに至りました。

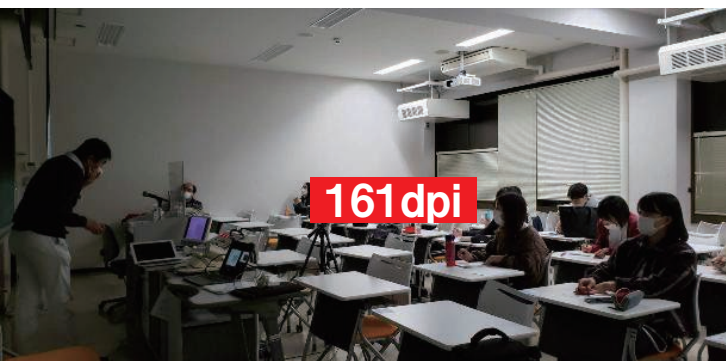
京北WSPの構成メンバーは、京の山杣人工房『木のこゝろ風』、ヤマケン(山と木の文化研究会)、鉾杉塾(茅刈り活動グループ)、立命館大学の景井教授と大場教授で構成されていて立命館大学学生達(CS:S)の支援もあります。これらの団体には(一社)京都府建築士会の会員メンバーが多数在籍し活動を共にしています。

京北WSPは、立命館大学シチズンシップ・スタディーズの受入れ団体の一つとして、学生達に里山セミナーと京北茅刈りワークショップ、古民家見学等を開催し、地域の持つ課題抽出とそれらの解決に向けた対策に取り組んでいます。

2022(令和4)年度は、2軒の茅葺き古民家を調査できました。今後に残存調査等により、茅葺き古民家の現状を知りそれらの建物を残す一助となるよう活動していきます。

(一社) 京北WSP 共同代表
京都府建築士会 理事
㈱竹内工務店 代表取締役 竹内明

※立命館大学シチズンシップ・スタディーズは、大学の正課科目として地域のボランティア活動をしている各団体の事業に参加し運営を支える事で社会体験をし、能動的で責任ある行動をとる社会人としての育成を促す事を目的とし企画運営されている。今年度の活動報告会は2023(令和5)年1月15日(日)に茨木キヤンパスで開催された。



里山セミナーの様子



茅刈り風景



シチズンシップ・スタディーズ報告会

令和4年度 山田家活用フォーラムの活動報告

山田家活用フォーラム代表 徳光都妃子

伏見区醍醐地域において、醍醐寺周辺の住環境や歴史的風土の保全を目指して「古民家相談所」の活動をしていくうちに、以前から密かに見守り続けていた山田家住宅

の山田氏から、離れて暮らす自分に代わって実家の古民家の保全をしながら、徳光のライフワークである醍醐地域の古民家相談活動をしてみないかとの相談があり、山田家の保全の実践をしながら地域の歴史的建造物に住まわれる方々の保全や活動の気軽な相談場所として「山田家活用フォーラム」を立ち上げるようになりました。

「古民家相談所」の事業場所ということで、山田家を借りる形になっています。ですので、家賃という経費が発生します。その上で、庭を含めた住宅の保全をしていかなければならないので、この山田家住宅を活用して経費を捻出していかなければ目的

を果たせません。事業をスタートするにもお金が要る。ですから、京都まちづくり地域貢献活動の助成金に応募しました。

幸い、そのような活動に理解のある地元住民のサポート参加もあり、体力や経済力の及ぶ範囲内で細くても長く続けることが肝要だと思いい活動しています。

時系列で事業報告しますと、山田家という場所があるということを知ってもらったのイベントとして、10月8日『木を植えた人』を聴く会』を実施しました。これはフランスの作家ジャン・ジオノの作品で、一人の男性がドングリを植える行為を通して森の再生・集落の再生につながる物語です(まさにまちづくりの話です)。営利を目的としない無私な心で生きる主人公エルゼアール・ブフィエの物語に感銘を受けた、名古屋の俳優榎原忠美氏が24年ほど前から

朗読会を開かれているもので、既に400回にわたる実績があります。この榎原忠美氏と行動を共にされるのが照明と音響を担当さえる杉谷直仁氏です。杉谷氏は東京からの参戦です。お二人は交通費のみで山田家での朗読会に出演してくださいました。

会場を暗く演出し、朗読後背後の暗幕を下ろすと、山田家の庭の緑が視界に開け、榎原氏が庭に消えてゆくという趣向でした。

来る2月26日には、山田家の庭園整備・屋敷の保全につながるワークシヨップとして、ランドスケープ・アーキテクトの白砂伸夫氏を講師に迎え、「白砂伸夫先生とある醍醐三寶院庭園と醍醐の民家庭園」を予定しています。醍醐の歴史に触れ、庭園文化について、造園業の方や地元の歴史や文化に関心の高い方を対象に実施予定です。

醍醐の民家庭園は、山田家住宅の庭園はもちろんの事、醍醐寺の筆頭坊官を務めた大溪家の2家をめぐります。山田家の庭は、三寶院庭園のミニチュア版のような庭ですが、大溪家の庭は、石の使い方が豪快で全く様子を異にします。キャンセルの無いよう、無事に実施できることを祈りながら近づくと日々をおくっています。原稿の締切が事業の前なので報告できず残念です。

また、助成金の事業とはしていませんが、(二社)京都府建築士会の仲間の松田容子さんにお声がけし、趣味で続けておられる「ボジャギ」の作品展を9月に開催いただきました。お陰様で、建築士会の仲間の方々に山田家を訪問いただくチャンスをおいただき、言葉に尽くせない感謝です。紙面をお借りして御礼申し上げます。



『木を植えた人』を聴く会



山田家庭園初夏の整備



松田容子さんのボジャギ展「風と光と手仕事展」

歴史的建造物の公開に触れる(1)

京都市文化財マネージャーの視点

永松 尚



ながまつ・たかし

スクール・アーキテクツ
一級建築士事務所代表
京都市文化財マネージャー(建造物)
認定NPO法人 古材文化の会理事

この原稿を執筆している現在は、2月中旬である。1月には、第13期京都市文化財マネージャー育成講座(建造物)が開講した。コロナ前と変わらぬ状況であれば、7月に修了式を迎え、また新たな文化財マネージャーの仲間が増えることになる。

「京都を彩る建物や庭園(以下、京彩)」制度と京都市文化財マネージャー(以下、文マネ)の関わりについて、12回目の寄稿となる今回は、推薦や調査など京彩制度に対する従来の関わり方とは異なる事例を取り上げてみたい。

新居家と淀のまち

京都市内の街なかから大阪方面に向かう京阪電鉄の列車は、中書島をすぎると宇治川の堤防に敷かれた線路を南下する。次の淀駅までの駅間距離が京阪本線のなかで最長となる区間らしい。右手に広がる沿線一帯は、環境保全や都市インフラ関連の施設が集積した近郊整備区域として位置づけられ、それまでとは一変した風景がしばらく続くが、堤防から外れ再び民家が見え始めた直後、今度は左手にJRAが誇る四大競馬場のひとつ、京都競馬場が間近に迫る。

二〇二〇(令和2)年秋からの大規模な改修工事はこの春に竣工するが、建設中の姿からも見てとれたこの巨大な施設の横を誘われるかのように列車はようやく淀駅のホームに滑り込む。

今回とりあげる新居家の由緒において決して無関係とはいえないこの京都競馬場を南下する。徒歩一〇分足らずの位置にある文相寺という寺に差し掛かる。

この辺りは、淀新町と呼ばれる地域で、江戸期から淀城下の町割りに含まれる。淀

は桂川、宇治川、木津川の三川が合流し水郷と呼ばれる地域でもあり、城の掘割も川の水を利用し、城下一带にさながら水網都市のように張り巡らされていたことが古図でも知ることができる。このことは、逆に言えば、昔から川の増水による水害に苦しんできた土地ともいえる。

一八六八(明治元)年に木津川が大氾濫を起こしたことで、直後からこの木津川を付け替えが行われた。地域には、この明治新政府が手掛けた大規模な土木普請の遺構が数多くこのころ。

文相寺の南側の小路から東の方に目を向けると三〇mほど先に三角屋根とアーチ窓が印象的な洋館が目飛び込んでくる。登録有形文化財「新居家住宅」である。

小路を進むと直前で右手に折れ、南側に廻り込むとどうじに、川石を積んだ小さな石段と胸の高さほどの門構えが出迎えてくれる。敷地南西隅に位置する新居家のアプローチである。門に取りつく柵も杉皮で施されているが、目立つ位置に登録文化財の標識を複写したものが掲げられている。町

家などでは軒下の入口脇などによく掲げられているが、ここではそれができない。果たして標識そのものが、登録文化財に住まわれている全ての所有者のモチベーションのシンボルとは限らないだろうが、少なくとも新居家では大切な標識を「雨晒しにできない」といった心配りの表れであろうと、初めて訪ねた際に強く感じた。

往来から目にしたのは典型的な洋館の姿だけであったが、門越しに眺める建物の風景は、和瓦を載せ屋根や奥の庭へつづく露地門などであり、このように新居家は洋館と和館で構成されており、さらに主屋と位置付けられる和館には特異な離れを持つ歴史的建造物なのである。

新居家は二〇一四(平成二十六)年に登録文化財として登録されており、その際に京都市文化財保護課・石川祐一氏による調査で由緒沿革や建築年代から以降の経緯などが明らかにされている。具申時の資料によれば、一九二五(大正十四)年に大阪市住吉区天王寺町の黒木畠次郎がこの土地を購入していることが旧土地台帳に記録され

ており、この黒木畠太郎を施主として、請負人・山村瀬次郎、大工・森口末吉によって普請が行われ、一九二六(大正一五)年二月五日に上棟したことを伝える御幣が主屋の小屋裏から見つかっている。その後、一九三七(昭和十二)年六月所有者の移転を経て、一九四四(昭和一九)年、新居家に所有権が移った。現当主の新居毅一氏によれば、「先代が戦禍による被害を避けるため大阪の都市部からこの地へ移った。」とのことであるが、当初の建築主の黒木は、別宅としてこの屋敷を建てたという口伝が残る。同資料では、質の高い郊外住宅と記述されている。同じ京都市内ではあるが、街なかの著名な町家や同時代の建物と比べても見劣りすることなく、見所も多い。今回はその様相をお伝えしたいと考えた。

あらためて、アプローチから延段を進み玄関前からの眺めから話を戻す。

入母屋屋根を載せ格子戸玄関は和館部分に構えているが、洋館に接する境界としての位置でもある。玄関より左手西側が洋館、右手東側が和館となる。

洋館は、木造2階建て、急勾配の切妻屋根をフランス瓦で葺いている。外壁はモルタルで仕上げられており、西側の2階妻壁には前述のアーチ窓が三連に並び、その上部に木組の一部をハーフティンバーのように表しとし塗装を施している。玄関前から眺める正面南側の外壁は1階に縦長窓を並べ、2階は2尺ほど張り出した外壁の間口いっぱいを開き窓が設けられている。下端には妻壁同様に出桁を表した意匠を施している。

和館は、木造2階建て。和瓦で葺いた入母屋屋根であり、玄関を構える南側は平側となる。玄関内部に入るとまず最初に、四半敷きを模した目地が刻まれたモルタルの床に気づく。取次として続く玄関の間は四



アプローチ手前からの望見



北庭と離れ座敷西面



府道から見える象徴的な外観

畳半で天井は格天井の一種と思われる意匠が施されている。しかしながら、この時代の建築の特徴のひとつで間取の軸となる玄関からの中廊下といった動線空間の気配は消され、前方（北側）左寄りに半畳の踏込みのみを設ける。この踏込みは和洋両館を接続する半間幅で長さ1間半ほどの廊下や2階への階段の入り口である。この廊下は、北側奥の台所の手前に位置する三畳ほどの板の間を介して、洋館の応接間や和館の茶の間を結ぶものであり、家人のみに限られた生活動線であるが、これが中廊下に類するものかもしれない。間口一間半、奥行き一間の玄関と併せてこの邸宅の導入部はコンパクトに計画されている。

左手（西側）のドアを開くと、洋館の1

階、応接間である。床は寄木フローリングを敷き、壁は練付け合板を貼った腰壁とドイッ壁風のモルタル仕上げとし、さらにその上部の壁から装飾的な造形が付加された梁廻りと天井は漆喰で仕上げている。北面の腰部に作り付けられた化粧棚には筆返しのような部位を持つ。最も目立つのは部屋

の北西隅に構えたマントルピース形のストーブ置き場である。カラフルな釉薬によって彩色されたタイルが施されている。

応接間の北側は玄関の間と同様に、半畳の踏込みを介して前述の廊下につづく。

一方、玄関の間の右手（東側）は和館主

屋の十畳の座敷である。東面に一間幅の床の間と床脇を備える。矢形をモチーフに象

られた障子の棧の組子の意匠は粋であり、

また、天袋、地袋を含めて全ての襖、表具類の縁に根来塗が施されていることが艶っぽくもある。天井から吊られた灯具は当初からのものであるが、やはり矢を重ねた紋様が刻まれている。

座敷の南には庭に面して縁側を通し、奥に便所を備える。

北側は八畳の仏間であり、座敷と対称に北側の庭に面して縁側を通し、さらに北側奥に離れ座敷を張り出している。

この離れ座敷は、東面に北側に付書院を備える本床、南側に琵琶床を配し、その間に床脇を備えるが、普請を楽しんでいることが一目で解かる。漆塗の床框を設けた本床の地板は床脇まで通して一枚とし、その蹴込や床柱の絞り丸太のみならず、大きく御湾曲した竹や変木を床の間空間一帯に散りばめている。琵琶床の前の天井を垂壁で仕切り、竹網代を張るなど茶室風を意識しているようだが、一転として庭側をみると、手が込んだ欄間障子に加え、菱形に棧を組む北面と西面の縁側とを仕切る障子を閉じると、空間全体がダイアゴナルなラインで支配されているかのように感じられる。橋本に残る遊郭跡を拝見したことがあるが、それと似た非日常的な印象を強く受けるのである。具申資料には「濃厚な数寄屋風意匠」と記されているが、夕陽が差し込むと、妖艶な数奇空間に様変わりするのではなからうか。この離れ座敷は、黒木畠太郎の後、二代目の所有者となった前田末吉によって増築された。橋本（現八幡市）で遊郭・京華楼を営んでいた人物が施主となって得たことを知ると想像が膨らむ空間でもある。

増築時期は、新居家が所有者となる一九四三（昭和十八）年までの間と考えられるが、戦争末期においては、よほどのことがない限り、このように贅を尽くして普請がなされたとは想像しづらく、私見であるが、増

田末吉が購入した一九三七（昭和十二）年からさほど月日を経ることなく普請されたと考える。

階段を上ると右手（西側）が洋館2階、東左手（東側）が和館2階となり、いずれもプライベートルーム空間である。

2階洋室の内装は応接間と類似し、天井に装飾が施されている。外観として最初に目にしたアーチ窓には、ステンドグラスが嵌まるが、長く保存されていたものを用いて、近年に復元的に改修されたものだ。

具申資料では、この洋館の建築時期については、和館と同時期と考えられるが、和館との取付きにやや不自然な部分もあり、増築の可能性も残される」と記されており、実際に見ても判断は難しい。

外部空間に目を移すと、南北2つの庭の対比も興味深い。座敷から眺める南側の庭では、縁先に置かれた畳大ほどの鞍馬石の沓脱石が特徴的で、多くの灯笼を配する庭である。一方で仏間から眺める北側の庭は、高床となった離れの床組みの下から流れ出すかのような枯池を設け、架かる石橋は、前後で著しく大きさを変えている。さらに庭全体が段丘上になっており奥に向かって地盤を下げる。奥行十メートルほどの庭であるが、錯視により遠近感をデフォルメした作庭である。古地図を見ると明治期まではこの敷地の北側は木津川を引き込んだ水路であった。もし現在も裏地に水面が見えるのであればこの庭の眺めは今以上に豊かなものであったであろう。

以上が新居家の特徴の概要である。登録文化財具申時の評価は、大正後期から昭和初期にかけて建てられた中流階級による洋室付郊外住宅の典型的な事例であると記されている。

所有者による取り組み

新居家は「京彩」選定の翌年に登録文化財に登録されたことから、それを基に認定建物として評価された。つまり調査を通じて我々文マネとの繋がりはない。その上で筆者が新居家と関わるようになったきっかけは、「京彩」制度が醸成し続けているこ

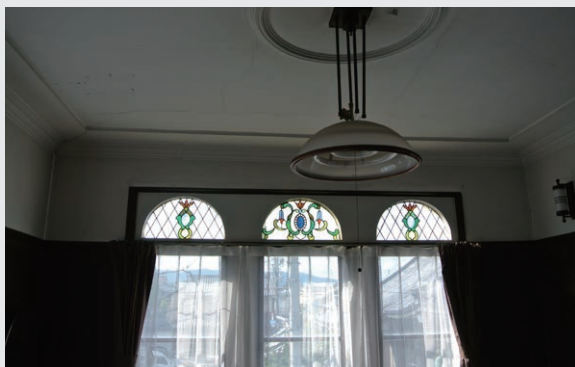
とにあると考える。創設以来十一年となるこの制度は文マネだけが活動して支えているものではない。制度の主体はいうまでもなく所有者である。維持管理や活用に関する情報交換や親睦を目的として「所有者の会」が組織されているが、さらにその中に

「京と彩り会」というコミュニティを設け、その会長として先頭にたたれているのが、新居家所有者の穀一氏であり、ご夫妻で協力しながらアクティブに取り組まれている。積極的な活用方法としての取り組みのひとつが、新居家を「まいまい京都」と連携

しツアーコースの対象とすることであった。「まいまい京都」は数多くのミニツアーで知られているが、二〇二一（令和3）年より「洋館付き近代住宅の名作」という呼称を用い、新居家の紹介に淀のまち歩きを組み合わせたツアーが加えられた。ガイド



応接間西面全景



洋館2階西面のアーチ窓



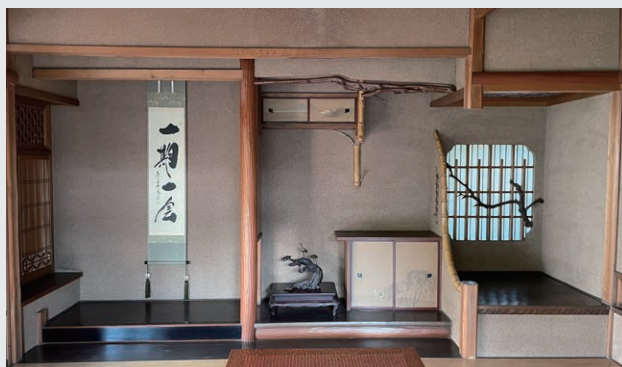
泰山タイルによるマンデルピース形のストーブ置き場（応接間）



矢をモチーフとした障子の組子（座敷）



北西面の障子（離れ座敷）



連続した床の間廻り（離れ座敷）



旧堤防に残る木田醤油浜納屋前でガイド中の新居氏(中央)と筆者(左端)



座敷について説明中の筆者



春の開催は、淀水路の河津桜の時期と重なる

を担うのは新居氏と文化財保護課の石川氏である。地域の歴史や建物の由緒を最も知る所有者自らと実際に登録文化財へ導いた者によるガイドは実感のあるものとして伝わるに違いない。また、応接間のストープ置き場のタイルについて、色合いやレリーフのモチーフなどからタイル研究者等によつて泰山製陶所によるものと判断されていることも、マニアの関心を集め、人気のコースとなった。

このツアーコースにおいて、同秋から諸事情により石川氏の役目を筆者が引き継ぐことになった。調査はもちろん、一度も訪ねたことがなく、役目として務まるのか不安でもあったが、近代の郊外型という類は、最も力を入れてきたものでもあり、実際、石川氏の引率により下見を行い、簡単なレクチャーを受けた段階で、この建物への関心が一気に膨らんだ。

昨秋までに五回を数えたガイドは、まち歩きでは、旧木津川流路の堤防跡の土手に建つ「木田醤油」や水運時代の遺構でも

ある「浜納屋」「浮田家」(いずれも選定建)について解説し、新居家では、洋館を説明する新居氏と分かれ和館のガイドを受け持っている。

石川氏と比べると専門性の高い解説を行うにはスキルとして程遠いが、特徴的な間取りや意匠については、所有者移転の変遷や地域的な背景を再考しながら、推察する余地も多く残されている。会を重ねるごとに、新居氏ご夫妻との会話はもちろんのこと、ツアー参加者とのやりとりにおいても新たな発見や疑問が生まれる。

建築当初、海軍将校らが集い、新居家の応接間でダンスパーティーを開催したという口伝が残るこの郊外住宅であるが、黒木太郎による土地の取得と同じ年に、現在の地に京都競馬場が移転した。西洋においては、紳士淑女の社交の場でもあったこの競馬に着眼し、環境ではなく娯楽を目的に別宅とした可能性についても話題にするが、これには、座敷に散りばめられた矢形の意匠の数々について、矢を的に当てる〴〵こ

と予想を〴〵的中〴〵を懸けたものではないかと言った具合に問いかけ、推察を楽しんでもらう。

最近になり、離れ座敷の欄間にも矢違いの形を見つけた。これによって、主屋に当初から手掛けられた意匠を座敷に取り込んだのか、或いは、主屋座敷の設えの多くも離れ座敷の増築時に一斉に自分の趣味に取り替えたのか、新たな疑問が生じた。主屋座敷のなかで唯一朱色が際立つ襖の縁の根来塗などは、後者の可能性も強く感じる。

回を重ねるごとに、新居氏との会話はもちろんのこと、ツアー参加者とのやりとりにおいても新たな発見や疑問が生じることも少なくなく、その都度、次回迄に調べることで、説明の内容がブラッシュアップされる。いわば、調査を行っているようなものでもあるが、細かな設えやこだわりのある細工のひとつつひとつに文マネ、あるいは建築士として何度訪ねて観ても、飽きることなく魅かれるのがこの新居家を筆者が推奨理由でもある。

さて、昨年五月に、『大河への道』という映画が公開されたが、主演・中井貴一が扮した公務員が橋爪功扮する脚本家の自邸を訪ねるシーンがある。このシーンはこの新居家の洋館応接間と和館主屋の座敷で撮影された。京都市メディアセンターによる映画やドラマのロケ地としての活用を推す事業である。最近では、ツアーの最後に必ず、新居氏よりこの説明があり、さらに参加者が座っている椅子のひとつを指差し、「中井さんがお座りになっていました」といった具合に声をかけられる。

歴史的建造物の活用について尋ねられると、限られた用途しか思いつかないことが多いが、他団体の活動や制度を取り入れる方法をこの新居家を通じて知ることになった。

おかげで、建物の公開に併せて解説(ガイド)を行う機会をこの新居家において得ることができた。この、まいまい京都との個人レベルのつながりは、昨年十一月に開催された「京都モダン建築祭」において、文マネ有志十一名がガイドとして取り組んだミニツアーコースの追加開設に繋がった。さらにこれは、文マネによる新しい活動や事業に発展する可能性をも帯びるものとなった。次回はこのことを取り上げてみたい。

●参考資料
「新居家住宅主屋」
登録文化財具中資料

●取材協力(敬称略)
新居毅一(新居家所有者)
石川祐一(京都市文化市民局
文化芸術都市推進室
文化財保護課)
藤井容子(まいまい京都))
畝 博之(文化財マネージャー)

深草の京町家

京都市伏見区

明治40年頃築の京町家主屋の全面改修工事です。

主屋は間口6.5間、奥行6間の二列3室型の総二階建てで、大屋根は煙出しのある風切り丸二列の瓦葺きの平入り、妻側の外壁と軒天は漆喰の塗籠となっています。

一階部分には大戸、くぐり戸、出格子には二本子持ちの通し格子、駒寄せ、二階部分には虫籠窓などの町家らしい意匠がほぼオリジナルの形で残っていました。内部も、座敷の造作をはじめ、通り庭のおくどさん、井戸、煤だらけの火袋のダイナミックな架構等、当時の生活が偲ばれました。

しかし近年では、この大きな主屋は生活の場としてほとんど使われることがなく、ご家族5人は離れて過ごされていましたが、「主屋で家族そろって快適な生活をしたい。」というご家族の強いご要望で、大型の町家では珍しい現代的要素を積極的に取り入れた住宅としての改修計画が始まりました。

計画するにあたって、この素晴らしい主屋の伝統的意匠をどこまで改修するのか大変悩みましたが、次代の改修工事に備えて復元が可能な工事とすること、ご家族がこの先もずっとこの主屋で笑顔が絶えない円満な生活を送られることを主眼に、以下のポイントを押えて計画することとなりました。

- 1 限界耐力計算に基づく耐震補強
- 2 通り景観に配慮した外観意匠の保存
- 3 一階の内観意匠の改修は、
通り庭↓現代的な生活スタイルと設備を取り入れ、一部オマージュとして伝統的意匠と構造美を保存する。
一列目(だいどこ等)↓伝統的意匠と構造美を保存し、一部に現代的な生活スタイル



オリジナルのままの主座敷



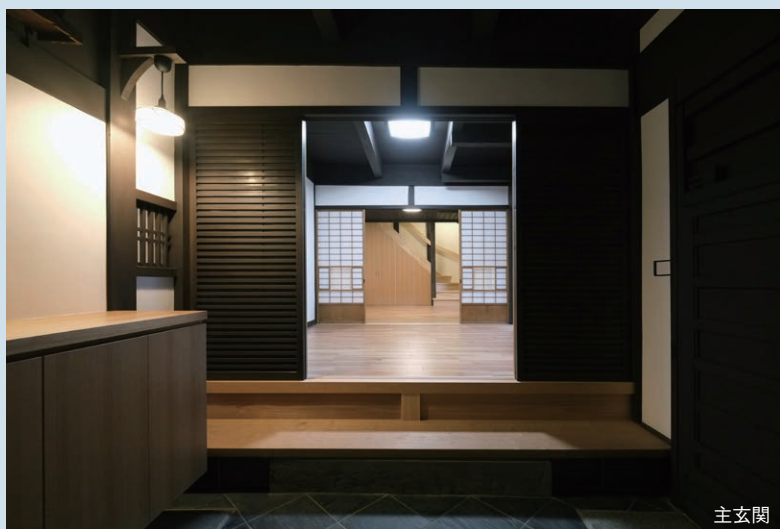
二列目おもての間から主座敷を見る



奥の間を改修した主寝室



改修後の通り外観



主玄関



LDK上部のロフトの架構

建築主／個人
 改修計画・設計／西田一級建築士事務所 西田教子
 構造設計／(同)一級建築士事務所アトリエSUS4 能戸謙介
 協力(住宅設備)／Emmy's工房 渡邊えみ
 施工／(株)木村工務店

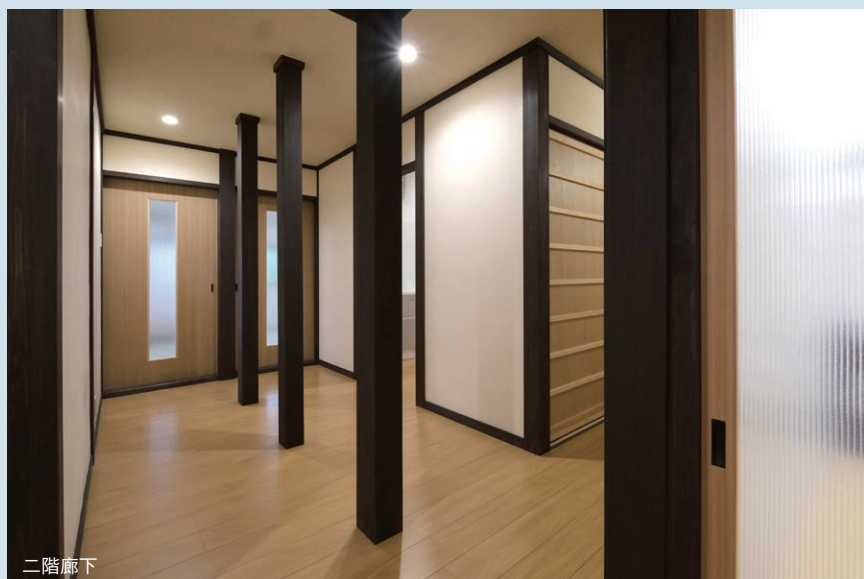
所在地／京都市伏見区
 用途／専用住宅
 工期／2021年12月～2022年6月
 建築面積／175.35㎡
 延床面積／280.05㎡
 構造規模／木造二階建(伝統工法)

撮影(内観)／松田デザインラボ 松田容子

イルを取り入れる。
 二列目(座敷等)↓縁側を通して見る奥庭の景色と室内の伝統的意匠を保存する。
 4 二階の内観意匠は、若い世代の生活スタイルを重視する。
 一年半後、主屋はご家族の生活の場として見事によみがえりました。
 なおこの計画は、京都市のまちの匠の知恵を活かした京都型耐震リフォーム支援補助金(本格耐震改修)、指定京町家改修補助金を受けています。
 (西田一級建築士事務所 西田教子)



厨子二階の子供室



二階廊下



通り庭のキッチンから一列目のリビングを見る



一列目リビングから通り庭のキッチンを見る



支部だより

丹後支部

竹野神社（通称／斎宮神社）

丹後支部 大村洋志

私が子供の頃から初詣、祭事、神事などで慣れ親しんだ「竹野神社」について今さらながら色々調べてみると興味深い歴史がありました。

竹野神社は、聖徳太子の母「間人皇后」ゆかりの地である「立岩」から少し南の「神明山古墳」の麓に立地しています。神明山古墳は古墳時代中期（4世紀末～5世紀初期）に大和の王墓をモデルに築造された日本海側屈指の大きさを誇ります。このことから古代から丹後と大和政権は密接な関りがあったと考えられ、「丹後王国」があったのでは？と言われています。

また竹野神社と神明山古墳との立地関係から神社と古墳の関係も注目されるところです。竹野神社は9代開化天皇の妃となった「竹野媛」が晩年帰郷した際に「天照皇大神」を祀って創建したといわれおり、旧竹野郡で唯一の「大社」の社格を誇る由緒正しい神社です。

現在の社殿は、1830（天保1）年に再建されたもので（1530（享禄3）年10月に火災で焼失）一間社流造、檜皮葺で天皇家ゆかりを意味する菊花紋、皇室専用の家紋である桐花紋が彫られており、立派で雰囲気のある拝殿となっています。



中門



本殿



大成古墳

流造とは、神明造から発展し、屋根が反り屋根が前に曲線形に長く伸びて庇となったものです。構造は、切妻造・平入で、側面から見た屋根形状は対称形ではなく、正面側の屋根が長く伸びており、中門は神社建築としては珍しい向唐門の派手なデザインとなっています。本殿、中門共に京都府登録文化財として指定されています。

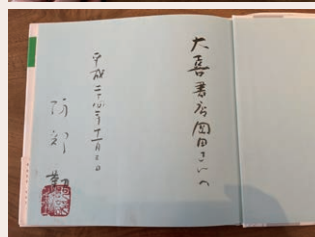
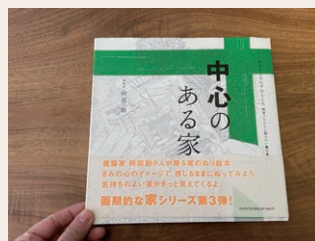
境内は植生が豊かで鬱蒼とした森林に囲まれており、まっすぐ伸びたヒノキがあれば曲がりくねった広葉樹があり強い生命力が感じられるパワースポットです。

「竹野テンキテンキ」という古くから竹野地区の子供たちに伝承されている民族芸能があり、10月の竹野神社の祭礼に演じ、子供6人からなる素朴ではあるが風流囃子物の古い形を残す芸能。中世の習わしを伝える貴重な民俗芸能とされており、こちらも京都府登録文化財に指定されています。

竹野神社を少し北に行くと立岩や日本海を一望できる大成古墳群があり、過去にドラマ等のロケ地に使われた景色の素晴らしい展望スポットとなっています。コロナ禍で鈍った体をリフレッシュするため神社・古墳散策してみてもいかがですか？

うちの本棚

● 今月の一冊



何度でも訪れたいと思う住宅で、ちょうど出版されたこの本を見ながら、コ罗纳があげたらまた見学させていただけたらと思っていた矢先、阿部さんの訃報が入ってきました。残念な気持ちとご冥福をお祈りするとともに、あの素敵な住宅が、住宅遺産として何らかの形でずっと生き続けて欲しいと思います。

（大喜書店 岡田良子）

【中心のある家】

建築家・阿部勤 自邸の50年

竣工し50年目を迎える今も、「毎日発見がある」という〈中心のある家〉。建築家自身が竣工時の原形を活かしながら、空間をつくり、手入れし、住まい続けてきた。図面・スケッチ164点、撮り下ろし写真34点、記録写真などの関連資料213点で辿る、日々繰り返される小さな改良や成長する庭とまちの関係、古びない家の軌跡。



著者：阿部 勤
写真：藤塚光政
発行：学芸出版社
定価：4,000円（税別）

大喜書店

京都市下京区麩屋町五条上ル下鱗形町563番2
TEL：075-353-7169
OPEN：12:00～18:30 水曜日定休
（土・日・祝日は11:00～）
京阪・清水五条駅から徒歩5分

一級／二級／木造建築士 定期講習

【令和5年度 講習会の開催について】

建築士事務所に所属する建築士の方は3年に1度の受講が義務付けられています。

建築士会は定期講習実施協力機関として登録講習機関である

(公財)建築技術教育普及センターへ協力し、定期講習の適正な実施運営を行っています。

●実施団体：(一社)京都府建築士会

●受講手数料：12,980円(税込) ※テキスト代、消費税を含む

※詳細は、当会ホームページをご覧ください。

日付	会場	申込受付	定員	会場コード
2023年6月1日(木)	舞鶴21ビル (DVD講習)	受付中 定員になり次第終了	50名	5B-01
2023年6月13日(火)	京都テルサ (DVD講習)	受付中 定員になり次第終了	100名	5B-02
2023年10月24日(火)	京都テルサ (DVD講習)	受付中 定員になり次第終了	100名	5B-03

編集後記

「京都だより」が2カ月に1回の発行になることが決まりました。毎月の特集記事に悩むことが軽減されることにはなるのですが広報編集委員会に参加していますと、士会の動きがいち早く知られて、役得なのに残念です。物理的に若い世代の人口が減ってきているため、会員の自然減小はやむをえないと思いますがそれ以上に急激に会員数が減っているようです。

昨今「Z世代」という言葉を聞きます。Wikipediaによると「生まれながらにしてデジタルネイティブである初の世代」の事で、手元の端末で何でもできてしまい、それが当たり前。SNSで交流し仲間をつくりが完結していたら、自分が知りたい情報にしか目も耳も傾けなくなり、なんだか偏った社会情報に浸されるようでコワイです。

そういう目線から考えると、せめて「京都だより」は様々な視点にたった公平な編集でもって、会員のみなさまのためになる情報をお届けしたいなと。そして、生身の人間同士のつながりを、会報を通じて感じていただければと思います。

会員歴6年生? (徳光都紀子)

長命寺は「琵琶湖周航の歌」でも名高い、滋賀県近江八幡市長命寺町にある天台宗系単立の寺院。西に琵琶湖を望む長命寺山の山腹に位置し、山号は姨綺耶山。本尊は木造千手観音立像、十一面観音立像、聖観音立像で、西国31番の札所。聖徳太子の開基と伝わる。

琵琶湖畔から続く808段の長い石段を登ると東西に広がる境内に到る。境内は三重塔、本堂、鐘楼、護摩堂、三仏堂、護法権現社拝殿および渡り廊下が建ち並ぶ。鐘楼からみるこれらの建築物群の檜皮葺屋根が重なる景観は美しく壮観な眺めである。

三重塔は本堂右手の東側の一段高くなったところに西面して建ち、墨書銘や棟札、寺蔵の古記録から1589(天正17)年に

工事に着手、約8年をかけて再建された。国指定重要文化財。三間三重塔婆、こけら葺で、全高24.35メートル。各層とも高欄付の縁を設け、外部を丹塗りや黄土塗りとし、組物は各層とも三手先。屋根勾配が中世の塔に較べて急な勾配であること、平面の通減率が小さいこと、軒の出が浅い等の特徴があり、桃山期の特徴がよくわかる建物である。

スケッチは三重塔の本堂前の石段下から見上げを描いた。和様の落ち着いた構成であるが、全体を丹塗りとした中に、組物などを彩る小口の黄土が映えて独特な印象がある。今回は水彩とアクリル絵の具を使って建築と背景の新緑との対照を表現してみた。



長命寺 三重塔

戸田建設(株)大阪支店建築設計室 林 伸昭

表紙のことは

発行人 ● 山領 正 編集委員長 ● 黒木要州
堀尾智子 / 松田容子 / 森重幸子 / 矢谷明也

編集委員 ● 加藤正浩 / 徳光都紀子 / 西田敦子 / 沼田俊之 / 橋本光生 / デザイン ● 松本和子 印刷 ● サンケイデザイン(株)

募 集

「京都だより」作品紹介ギャラリー

あなたの作品を広く紙面で紹介してみませんか？

本会では会誌「京都だより」に、会員の作品紹介ページを設けています。
建築、インテリア、ランドスケープなど、みなさまの個性あふれる作品をお待ちしております。

掲載に関して

- 募集対象は（一社）京都府建築士会会員が設計もしくは施工に携わったものとしします。
- 掲載料は無料ですが、広報編集委員会にて選考の上、掲載させていただきます。応募作品多数の場合等は、掲載できないこともありますのでご了承下さい。
- 写真の撮影者名は必ず付記願います。写真に著作権等が生ずる場合は、応募者にて対応願います。
- 掲載頁数は原則として1頁とします。
- 建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いすることがあります。
- 作品の掲載順及び紙面レイアウトを含む全体の構成は広報編集委員会にて担当します。
- 概要及び説明文はメールで送付願います。

提出資料

- 写 真／外観、内観等 3、4枚。
画像解像度 400 dpi 以上推奨。
デジカメ撮影の場合は1メガバイト以上を目安。
プリントの場合は2Lサイズ程度。
- 図 面／平面等 1、2枚。
画像解像度 1200dpi 以上推奨。
- 概 要／作品名称、所在地、建築主、設計者、施工者、用途、工期、建築面積、延床面積、構造規模。
- 説明文／作品に関する考え方を400字以内にまとめてください。

原稿期日及び送付先

- 期 日／毎月25日
- 送付先／（一社）京都府建築士会事務局
「京都だより 作品紹介」係

- 京都府知事指定 民間確認検査機関 ●近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
- 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関



株式会社 京都確認検査機構

Kind（親切） Open（明快） Certain（確実） Immediate（迅速）

■業務内容：

- 建築確認（事前審査有）・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》
- 住宅金融支援機構《フラット35（適合証明業務）》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画（技術的審査）
- 低炭素建築物新築等計画（技術的審査）
- 建築物エネルギー消費性能確保計画（省エネ適合性判定）

■業務区域：京都府全域

■手数料：当社ホームページをご覧ください。窓口で配布の料金表をご覧ください。
●納入は当社受付窓口または銀行振込で。

■営業時間・休業日

- ◆営業時間 午前9：00～午後5：30
- ◆休 業 日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆
（年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします）

〒604-0931
京都市中京区二条通寺町東入榎木町82
宮崎ビル4階

●ホームページ <http://koci.co.jp/>
●Eメール sinsa@koci.co.jp

TEL：075-256-8980 審査部
075-256-8981 検査部
075-256-8982 構造部
075-256-8984 評価部
FAX：075-256-8985 審査・構造部
075-256-8986 検査・評価部

～ご利用をお待ちしております～

契約駐車場（新堀木町沿コインパーキング・市営御池地下駐車場）については駐車券を配布しております。

